

東京都中学校 英語スピーキングテスト事業

令和5年6月26日

東京都教育庁グローバル人材育成部

1 実施概要

資料:「令和5年度 中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)実施要項」参照

(1) テストの概要

- ・目的
- ・対象(受験者数含)
- ・実施日時(前半組・後半組)
- ・実施会場(会場数)
- ・実施スケジュール(申し込みから結果発送まで)等の基本情報

(2) 使用機器・解答音声の録音方法

2 評価方法

ESAT-J Can-Do Statements 「英語を使ってできること」

CEFR	CEFR-J	ESAT-J GRADE	得点域	トピック	行動	内容	表現の構成
A2	A2.1	A	80~100	身近な話題	意見交換ができる	まとまりのある内容を話す 自分の考えや理由、具体例を話す	順序立てて分かりやすく伝えることができる
A1	A1.3	B	65~79	相手や自分のこと	質問したり、質問に答えたりすることができる	自分の考えと理由を具体的に話す	文を組み立てながら、複数の文を使って話す
	A1.2	C	50~64	自分のこと	話しかけたり、質問に答えたりすることができる	自分の考えと理由を話す	文を組み立てながら話す
	A1.1	D	35~49	自分のこと	質問に答える	自分の考えを話す	定型表現や簡単な語句を用いる
	Pre-A1	E	1~34	自分のこと	質問に答える	自分のことを話す	定型表現や基本的な単語を用いる
		F	0	話そうとしても伝わらないことが多い			

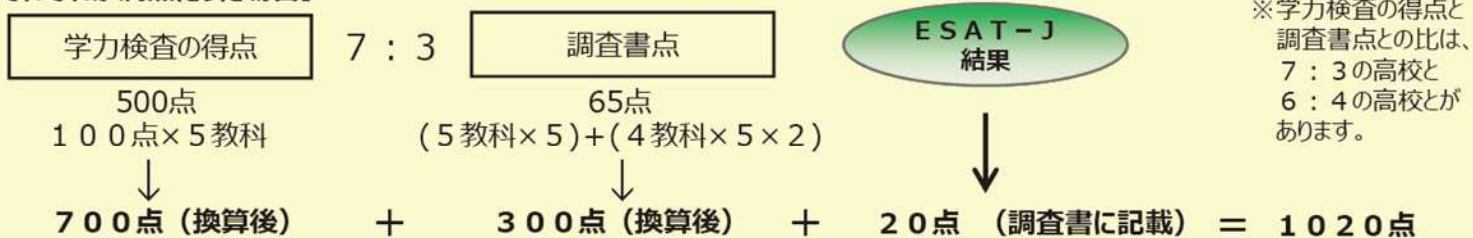
3 都立高校入試における点数換算の方法

4 どのように総合得点を算出するの？

How?

学力検査の得点と調査書点の合計にESAT-J結果の点数を加え、総合得点を算出します。

【それぞれが満点だった場合】



例えば、右のような場合の総合得点を算出してみましょう。

Let's try!

【学力検査の得点と調査書点との比が7 : 3の都立高校の場合】

学力検査の得点						調査書点										ESAT-J 結果
教科	国語	社会	数学	理科	英語	教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	技家	保体	英語	
得点	82	95	76	72	86	評定	4	5	4	4	4	3	3	4	4	B

- 学力検査の得点(換算後) : $(82+95+76+72+86) \times 700 \div 500 = 575$
 - 調査書点(換算後) : $(4+5+4+4+4) + (4+3+3+4) \times 2 = 49$
 $49 \times 300 \div 65 = 226$
 - ESAT-J結果 : B ⇒ 16点
 - **総合得点 : 575点 + 226点 + 16点 = 817点**
- ※小数点以下は切り捨てます。



4 都立高校入試におけるESAT-J不受験者の取扱い

Q4：ESAT-Jの実施日及び予備日のどちらも受験することができなかった場合、都立高校入試での扱いはどうなりますか。

A4：新型コロナウイルス感染症への罹患^りなど、やむを得ない理由でESAT-Jを受験することができない又はできなかった場合は、不受験者として次のような対応を行います。

英語学力検査の順位	英語学力検査の得点	ESAT-J結果
36	78	A
37	76	B
38	75	A
38	75	B
38	75	A
38	75	B
38	75	C
38	75	不受験者
38	75	A
38	75	B
38	75	B
38	75	B
38	75	C
49	74	B

英語学力検査の得点で順位を決め、不受験者と英語学力検査の得点と同じ者のESAT-J結果をそれぞれ点数化し、その平均値により、不受験者の「仮のESAT-J結果」を求めます。

その際、平均値が18点以上はA、14点以上18点未満はB、10点以上14点未満はC、6点以上10点未満はD、2点以上6点未満はE、2点未満はFとします。

左の表では、英語の学力検査の得点と同じ者のESAT-J結果はAが3名、Bが5名、Cが2名であり、平均値は16.4点となるため、不受験者の「仮のESAT-J結果」はBになります。

詳しくは、「東京都教育委員会ホームページ（令和4年5月26日）報道発表資料」を確認してください。



5 ESAT-Jを実施した上での評価

1 実施概要		
(1) 日程	ア 実施日：令和4年11月27日(日)	(2) 会場
	イ 予備日：令和4年12月18日(日)	ア 実施日：都立学校 150 会場 民間施設 47 会場 都立施設 1 会場
(3) 受験者人数	ア 実施日：69,529 人	イ 予備日：1,668 人 (受験者の合計 71,197 人)



2 令和4年度 出題・結果の概要

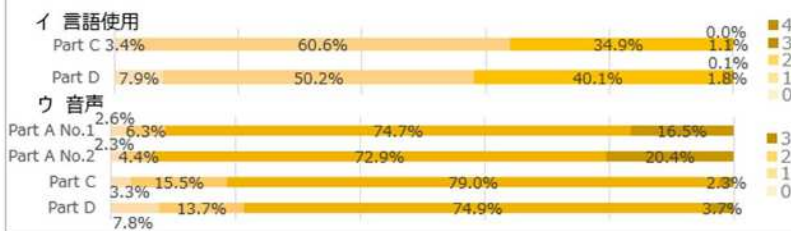
Part	出題のねらい	出題形式	出題数	評価の観点		
				コミュニケーションの達成度	言語使用	音声
A	英文を読み上げる形式の問題で英語音声の特徴を踏まえ音読ができる力をみる。	英文を読み上げる	2			○
B	図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に回答する力や、図示された情報をもとに「質問する」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」など、やり取りする力をみる。	質問を聞いて回答する・意図を伝える	4	○		
C	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。	ストーリーを英語で話す	1	○	○	○
D	身近なテーマに関して聞いたことについて、自分の意見とその意見を支える理由を伝える力をみる。	自分の意見を述べる	1	○	○	○

- イ 評価の観点
- (ア) コミュニケーションの達成度 [2段階(0~1)] コミュニケーションの目的の成立
 - (イ) 言語使用 [5段階(0~4)] 語彙や表現の使い方や幅広さ、内容の一貫性、論理構成
 - (ウ) 音声 [4段階(0~3)] 発音、イントネーション など

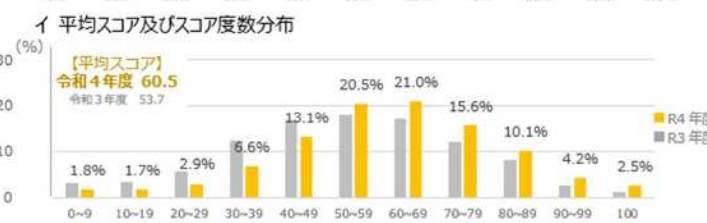
(3) 評価の各観点の達成度 (11月27日実施分)

ア コミュニケーションの達成度

Part B				Part C				Part D	
No.1	No.2	No.3	No.4	1J	2J	3J	4J	意見	理由
48.0%	44.8%	82.3%	52.0%	85.4%	46.1%	52.8%	46.3%	62.3%	59.3%



(2) 結果概要



分析 ア コミュニケーションの達成度

- 自分のしたいことや既に行ったことについて、必要な情報を伝えることができている。
- 自分の意見を、そう考えた理由を具体的な事例を用いるなどして、分かりやすく伝えることができている。
- イラストに描かれた内容を、既習の語彙や表現を活用して伝えることが十分ではない。

イ 言語使用

- 簡単な接続詞を用いて、文を組み立てながら話すことは概ねできている。
- 語彙、表現や文法を幅広く活用した伝え方が十分ではない。

ウ 音声

- Part A では9割以上、Part C では8割以上、Part D では8割程度の生徒が、聞き手が理解できる音声で話すことができている。
- 抑揚をつけた話し方や伝え方が十分ではない。

6 中学校と高校における英語指導の充実及び円滑な接続

